

今月のトピックス

放射能汚染食品を食べさせない学校給食を 健康情報研究センター代表 里見宏さんに聞く

2012年3月28日に開催された学校給食全国集会のプレセミナーとして、「里見宏さんによる 原発事故から何を学ぶか～食の安全と子どもたちへの教育」が開催されました。このお話しの中で、「内部被曝をしないために」として13項目を挙げて東京電力福島第一原子力発電所由来の放射性物質に汚染された食品を食べることの問題点をお話しいただきました。

里見宏さんは、健康情報研究センター代表で、全国学校給食を考える会の顧問でもあります。1970年代より、放射線照射食品の危険性について警鐘を鳴らしている研究者です。

厚生労働省の新しい放射性セシウムの基準値が2012年4月1日より導入されていますが、自然界にある放射性物質(例:カリウム40)の毒性より、原発事故によって飛散した放射性物質(例:セシウム134、セシウム137、ストロンチウム90、プルトニウム、ルテニウム106、ヨウ素131)の危険性が高いと考えられるので、自然界にも放射性物質があるという比較論で福島原発の放射性物質を同質に扱ってはいけないという立場です。

プレセミナーでは時間が足りず、聞けなかった部分を4月にインタビューし、まとめました。

(聞き手、文責:学校給食ニュース/生産者と消費者をつなぐ測定ネットワーク 牧下圭貴)

内部被曝をしないために

1. 放射性物質で汚染された食品は食べない

体内に取り込まれた放射性物質は放射線を出し続け

る。排泄されると言っても全部は出ない。生物学的半減期は気休め。放射線は物理的半減期でしか減らない。内部被曝は外部被曝に比べて圧倒的に危険が高い。食品安全委員会の答申「生涯累積100mSv」は危険。

○自然界にある放射性物質と福島原発からの放射性物質とは、存在形態(形状)が違います。

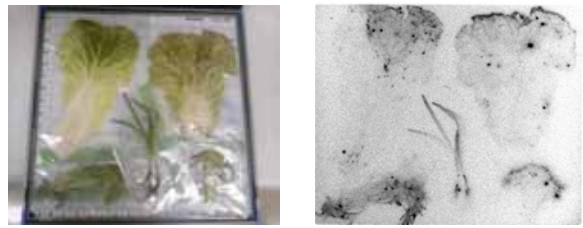
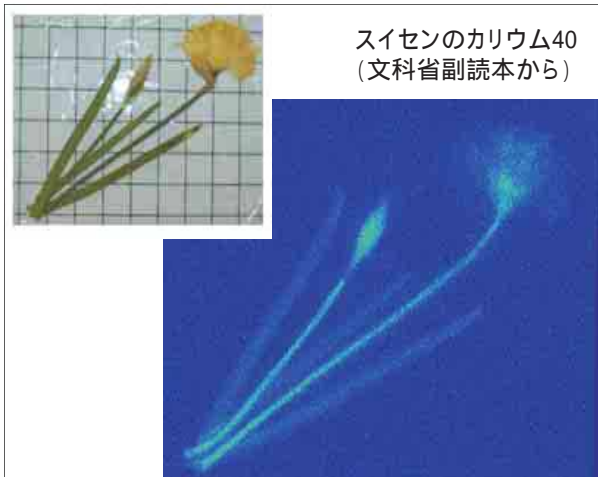
自然界にある放射性物質は原子ごとにバラバラになっていますが、原発事故で放出された放射性物質は、原子が何千万個も固まって微粒子になっています。

スライド1とスライド2の写真を比較してみましょう(次ページ)。

スライド1は、文科省が子ども向けに作った副読本にある写真で、自然界にあるスイセンのカリウム40によってスイセンの形がぼんやりと影になります。つまり、カリウム40がバラバラでまんべんなくスイセンに存在しています。

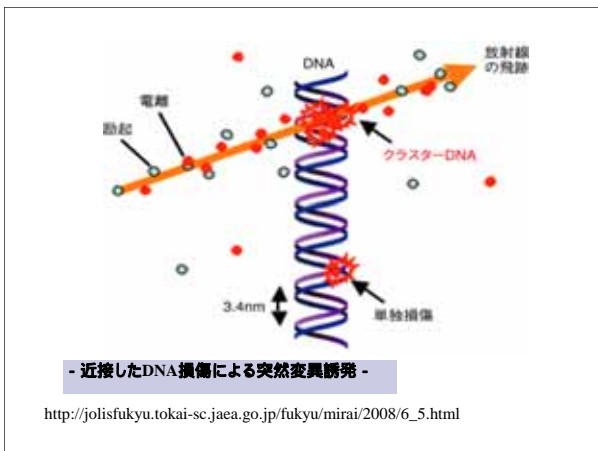
スライド2は、福島原発由来の放射性物質が植物(野菜)に吸収された様子を示しています。黒いツブツブが見えます。つまり、放射性物質が固まりになって存在しています。

地面のホットスポットが問題になっていますが、植物の葉っぱ1枚でも、放射性物質がばらついていて、ホットスポットをつくっています。身体の中に入ってもホットスポットになると考えられます。このホットスポット状態の放射性物質が体内に入り、近くにある細胞内の成分や遺伝子を集中的に傷つけます。身体に影響の少ない細胞なら危険も少なくなりますが、重要な臓器や精子や卵子という細



胞であれば深刻な事態になります。もう一度繰り返しますが、放射性物質の大きさが危険度が違うので、福島原発事故から出た放射性物質は自然界の放射性物質より危険だということです。

○放射線が遺伝子 (DNA) を傷つける



は、DNAを修復する能力があります。傷が大きければ、細胞は自ら死にます。ところが、傷の修復がうまくいかずに生き残った時が問題となります。

自然界の放射線も遺伝子を傷つけています。でも、福島の放射性物質より危険が少ないのです。福島の放射性物質を食べてしまうと身体の中で集中的に同じ場所を傷つけるので、細胞成分や遺伝子が受ける危険は大きくなります。

○放射性物質の「毒性」は？

放射性物質は、放射線以外にも化学物質としての「毒性」があります。

ウランは毒性実験から0.2 μg/kg/日の耐容1日摂取量があります。しかし、セシウム、ストロンチウムなどは慢性毒性が調べられていません。

もうひとつ、放射線をあてた食品の研究で、放射線が食品の中を通過すると、新しい化学物質が生成されることが分かっています。脂肪酸から発がん性のあるシクロブタンができます。発がん性のある活性酵素も生成されます。放射線をあびると身体の中でも同じように危険なものができると考えられます。

○内部被曝の放射線量

劣化ウラン弾の危険を指摘している矢ヶ崎克馬氏 (琉球大学名誉教授) の説明では、ヨウ素131 (物理的半減期8日、生物学的半減期130日) について、「内部被曝では、ヨウ素131で、1000万分の1グラム程度のわずかな量を取り入れても、たった8日間で計算しても、1Sv (マイクロ

でもミリでもなく、ただのシーベルト)という巨大な放射線量がある。30年かかって出す放射線量をヨウ素は8日間で出してしまう。内部被曝のメカニズムを語らずに、早く減衰するから大丈夫と言っているのはとんでもないこと」としています。8日過ぎたから大丈夫という話ではないのです。

放射線の影響力について、「植物が語る放射線の表と裏」(鶴飼保雄著 培風館)によると、「放射線が飛んでいくとき、そのエネルギーで原子の周りを回っている電子を弾き飛ばしていきます。電子が飛ばされた原子や分子はイオン化します。ガンマー線が $1\mu\text{m}$ (1mmの千分の1)通過すると約100個のイオン化が起きるとされています。粒子線でエネルギーのより高いアルファ線では約4,000個のイオン化が、また、中性子線は中間の約2,000個とされとされています。放射線があたった原子はイオン化し「フリーラジカル」と呼ばれる不安定な状態になります」と説明しています。内部被曝とは、それだけ強い力を持つ放射性物質を体内に取り込んだ状態なのです。

○年間1ミリシーベルト、100ベクレル／キログラムの問題

これは1キログラム当たり100ベクレル以下の食品なら食べてよいとなっています。100ベクレルは1秒間に100個の原子が崩壊し放射線を出すという意味です。ここで、毎日100ベクレルの食事を1キログラムずつ、1年間食べ続けると下の計算のように31億回の放射線を受けることになります。

$$100(\text{ベクレル}) \times 60(\text{秒}) \times 60(\text{分}) \times 24(\text{時間}) \times 365(\text{日}) \\ = 3,153,600,000$$

人間の細胞は約60兆個、1個の細胞は10の15乗(1000兆)個の原子からなっているとすると、遺伝子は30億塩基対になっているので1塩基が15原子とすれば900億個の原子からなっています。1/12500の確率で放射線と衝突します。遺伝子は構造上集まって遺伝情報を作っているのです。ぶつかった場所では、DNAクラスター損傷が起きることになります。

○科学的な根拠はない

2011年9月27日、食品安全委員会は放射能汚染した食品からの最大摂取量を「生涯累積100ミリシーベルト」

(自然放射線を除く)としました。そこで、厚労省は100歳まで生きると仮定し、年間1ミリシーベルトを超えなければ大丈夫として、新基準の根拠にしました。

内部被曝のデータがないのに外部被曝のデータで、食品安全委員会が「生涯累積100ミリシーベルト」としたのがそもそもの間違いです。

また、ガンという死に至る重篤な影響だけで放射線被曝の害を調べていますがこれが間違いです。害は死に至らない異常がたくさんあるからです。放射線の害については広島と長崎の原爆被曝者の疫学調査が根拠にされています。この調査で20-30ミリシーベルトでもガンが増えていることが2007年に報告されています。しかし、これを無視して100ミリシーベルトにしています。こうした政治的な評価は科学とはまったく違い事実を基にしていないので非科学的な判断となります。

アトピーや妊娠中毒などこれからのいろいろな異常がわかってくるでしょう。これまでの公害病と同じです。最初は光化学スモッグ中毒も、水俣病も、重篤なものでも認めませんでした。その後、被害の大きなものは認めても、軽い症状は認めませんでした。原発事故の放射能被害も同じです。

100ベクレルなら安全という根拠はどこにもないので

【補足】

矢ヶ崎克馬氏(琉球大学名誉教授)による説明では、自然界にある放射性物質と人工的な放射性物質とは、存在形態(形状)が違います。

・海水中にもウラン238が5ppmあります(1トンのうち5グラム)。しかし、長年の風化で原子がバラバラに存在しており、海水を飲んだときも α 線が出てくる場所はバラバラに離れているので、遺伝子の分子切断の場所が相互作用しません。

・一方、人工的な放射性物質は、必ず固まって微粒子になります。直径1マイクロメートルの微粒子の中に1兆個の原子が含まれます。ウランやプルトニウムが体に入ったら、1つの場所から次々と α 線を放出。直接打撃を受けなかった隣の細胞まで変性させます。

・なお、自然放射能のうち、宇宙線の放射能は、体を突き抜けます。そのため、まばらな分子切断で修復されていきます。

2. 放射能汚染情報の公開

すべての検査結果を公開する。事実を公開しないから風評被害が起きる。食品の検査は暫定検査である。機器によって値が違ふ。情報は一番被害を受けやすい人たちに基準を合わせる。学校給食も早急に検査する。

○基本は全量検査、出たら、出荷しない、食べない。

福島原発から出た放射性物質で汚染された食品は食べてはいけません。食品は全数検査してから出荷すべきです。サンプル調査は安全の証明ではありません。あくまでも目安です。

○今の測定装置は目安にしかならない

現在、放射性セシウムはガンマ線のみを、ゲルマニウム半導体検出器かNaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータによって測定しています。厚生労働省は「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」を作って、測定方法を決めています。これらの測定装置は、原子力産業が作ってきたものですが、測定装置としては扱いが難しく、測定者や測定場所のわずかな温度変化などに影響を受けやすく、時間もかかります。測定値は目安にしか過ぎません。農薬や添加物を測る器械とはくらべものにならないほど感度が悪いのです。今後、いろいろな会社がきちんと測れる器械を作り出すでしょうが、それまでは分析結果には眉につばをつけて見ましょう。

○目安であっても情報を出して行く

今の基準はあくまでも、暫定条件です。政府が言っているだけで、市民がどこで折り合いを付けるかは、これからの問題です。政府は国の基準にあわせてくれといっていますが、この発想が大間違いです。

検査結果の数値を公表しないことは、風評被害のもとです。数値を公表すれば、消費者側がそれを食べる、食べないという判断ができるようになります。

ただ、分析している測定数値もばらつきがあるということを知っておきましょう。

3. 内部被曝は測れない

すでに被曝した人の検査が必要。ホールボディカウンターで全ての被曝量を測れない、アルファ線やベータ線は測れないので本当の被曝実態がわからない。目安と

して使っているだけ。

○被曝した人の被曝実態を

原発事故によって、空気や水や食物から内部被曝してしまった人たちがたくさんいます。ホールボディカウンターという全身の被曝量を測る装置はありますが、ガンマ線しか測れません。アルファ線、ベータ線は体内に放射性物質が存在しても、放射線が外に出てこないからです。アルファ線、ベータ線は、ガンマ線より人体に与える影響が大きいですが、物質を突き抜けないのです。

目安にしかありませんが、それでも早く測定しておく必要があります。

4. 呼吸や傷口など体内への侵入を極力防ぐ。呼吸のようにチリと一緒に吸い込んでしまうような汚染地区は逃げざるを得ない。マスクは気休め。不織布製マスク(市販製品の主流)の効果は5マイクロメートル。ウイルスも通り抜ける。放射性物質はそれよりズーッと小さい。(原子の大きさは大体100ピコメートル(1pm=0.000001 μm))

○汚染地区とは？

住んでいる場所を汚染地区ととらえるかどうかはそこに住む人の判断です。それは、福島県だけのことではありません。調べて、事実を知って、汚染地区と判断するかどうかであり、国の設定とは関係ありません。はっきり危険とされる場所だけが汚染地区ではありません。

事実は、数値でつかむ必要があります。そして、事実を知れば、自分で評価し判断できます。市民として、消費者としての判断です。そのためにも、まずは、事実を把握することです。食品も、空間も測定することです。

5. 子どもは細胞分裂が活発なので影響が大きい。子どもは子孫を作るので内部被曝をさせない。子どもは汚染した食品の摂取を優先的に避ける。妊娠可能な女性もこれに準ずる。

○子どもには、食べさせない

放射性物質は、危険物として、ゼロが前提です。子ども向けの基準というのはおかしい。

魚介類の水銀については、厚生労働省が、妊婦、妊娠可能性のある人には注意喚起を出しています。それ

は、どうしても食べざるを得ない人の我慢量です。

放射性物質の基準も、どうしても食べざるを得ない人の我慢量ですが、その危険性のデータはありません。また、放射性セシウムだけでなく、想定しているというプルトニウムやストロンチウムなどは、測ってもいませんし、どのくらい食べることになるのかも分かりません。

子どもや妊娠可能な女性は優先的に内部被曝させないことが必要です。

6. 食品検査が公表されると、その後の選択は本人・保護者の判断とされる。貧富の差で防御に差が出る危険がある。権利として差が出ないように行政に求める。運動も組む。

○貧富が安全性に影響してはならない

数値が公表されたときに食べるか食べないかの判断は消費者側に渡ります。そのときに、経済的に汚染度の低いものが価格は高く、汚染度の高いものが安くなります。その結果、各世帯の経済生活によって安全度の違いが出てきます。これを「しょうがない」こととして見過ごすのでしょうか？

貧富の差があっても安全に食べられていたのに、放射能の問題では、貧困側に危険負担させられることとなります。だから、今の基準の在り方などを含めて、このことにもっと怒るべきです。

7. 国の基準は安全の保証でなく我慢しろという値に過ぎない。

安全かどうかはこれから確認されていく。

○人体実験がはじまっている

安全かどうかは、これからの人体実験になります。「ただちに害がない」というごまかしと同じです。今、10歳、20歳の人たちが、60年後、どういう病気や死に方をするか、という問題です。

○1ミリシーベルトの意味

ICRP(国際放射線防護委員会)は、一生涯の被曝線量について次のように考えています。安全性が高いとされる職業は平均年死亡率が1万分の1を超えないとされます。だから、一般人では死亡率が1万分の1を超えない

と考えられる一生涯の被曝線量の限度を1ミリシーベルトにしました。

これはつまり、「我慢線量」です。

100ベクレルという食品の基準は我慢基準です。

論理をすり替えるために自然界の放射線の話が持ち出されますが、最初に述べたとおり、自然の放射能と福島原発の放射能ではふるまいが異なります。ガンマ線は同じですが、放射線の出方やふるまいが違うことを知っておく必要があります。

○新しい考え方が必要です

ドイツでは、福島原発事故を新しい事象ととらえ、新しい回答が必要だという認識をしました。それが、原発推進から脱原発への切り替えとなりました。

日本では、今回の原発事故を新しい事象と思っていないで、古い(経験のある)事象と捉えています。電源が水をかぶっただけだから、水をかぶらないようにすればいい、という古い回答しか出せません。だから、世の中が納得しないのです。今までの経験とは違う、新しい事象だととらえて、安全性を考える必要があります。

8. 放射性物質を海に流すのを防ぐ。海で拡散するが、魚などに生物濃縮され、また人の口から入り内部被曝をする。これを防ぐには放射性物質の除染を完全にする。水洗のような粗削りな方法は限界がある。半分とか十分の一は安全の保証にならない。東電の汚染水の監視。

○放射性物質は煮ても焼いても存在する

がれきの焼却が問題になっています。放射性物質が含まれているがれきを焼けば、放射性物質は濃縮されます。

除染したごみを焼くのは、濃縮するということです。放射性のごみを他のごみで薄めてから焼くというのは意味がありません。焼けば、濃縮されて放射性物質としてはもっと危険になります。

○水で流せば海に行き、生物濃縮する

一方、水で薄めるという論理も間違いです。水で流せば川から海に行きます。

海で生物濃縮します。食べものとして帰ってきます。

○隔離が大原則

拡散した放射性物質は、原子力発電所の廃棄物と同じです。放射能の濃度が薄くても、きちんと隔離するのが大原則です。

9. 原発事故はこれまでの公害に輪をかけた悪質な加害性を持つことを理解する。原発から出された放射性物質に人体が適応のメカニズムを持っていないことも理解する。

○処理の方法がない

PCBや、有機水銀など、化学物質には処理方法があります。

現在のところ、放射性物質の処理の方法がありません。だから、低濃度汚染の原子力発電所の廃棄物でも、隔離して厳重に管理・保管されているのです。

そのような物質が、広範囲に放出されているのです。これまでの公害とは比べものにならない範囲、加害性があります。

○生物は適応できない

生物は、毒物に対して、少しずつ適応します。化学物質には解毒する酵素を作り出します。PCBや有機水銀などは、適応できないスピードで入ってきたため、毒として被害をおよぼします。

放射能には適応できません。自然放射能に対して、遺伝子が傷ついたとき直すというメカニズムはありますが、100%の修復ではありません。修復のエラーや修復不可能な状態があります。修復エラーが一番問題です。体細胞のエラーは、がんなどの病気になります。生殖細胞の場合、突然変異が起きます。放射線の突然変異は劣性変異で1代では表に出ません。

遺伝学者は6代先を見ないと、変異がどのように出てくるかどうかは分からないと言います。自然界の放射線は、遺伝病やがんなどにも関係してきました。自然の放射能でも、安全ではありません。自然界に放射線があるから少々人工放射能を浴びても大丈夫、という話にはならないのです。

10. 除染された土壌の管理。未来への責任

○どこに運ぶか

土を天地返ししても、その地下には放射性物質がずっと残ります。除染した土を持っていくところがありません。

科学的な事実は、放射性物質は消えてなくなる、ということです。この事実を覆い隠して除染などという小手先のごまかしをしていると、人間が受けるしっぺ返しはすごくなります。政治が科学的な事実を損うようなことをして、うまくいった例はありません。当事者が言い逃れをしているだけで、あとから、大きなしっぺ返しがかかります。結果的に市民が被害を被ることになります。

11. 原子力発電所はその危険性の質の大きさから廃止する。原発の廃炉の方法と廃棄物最終処分法に今後全力を挙げる。

電力不足とは別の問題です。これだけの危険性を知ったわけです。

どうやって廃炉するか、廃棄物を最終処分するか、そちらに力を注ぐ必要があります。

12. 原発推進者の責任を明確にする。

原発事故で様々な発言をした人たちがいます。安全性を繰り返しました。なかでも、事実を積み重ねることを仕事にしている科学者には発言に責任を取らせる必要があります。

13. 学校給食の食材は検査できる体制にする。

○陰膳方式の問題

大原則として、子どもに福島原発の放射性物質を食べさせない、内部被曝をさせないことです。そこから考えれば、陰膳方式は栄養バランスを調べるようなときに使えますが、放射性物質の汚染を避けるためには役に立ちません。意味のない検査です。汚染の数値を低くし、危険を見逃してしまいます。

もちろん、陰膳を食べる前にサンプルチェックというもの、同じです。

○全量検査

福島原発の放射性物質は、まんべんなく食品中に散

っているわけではありません。食品・食材中にホットスポットがあります。だから、基本的には全量検査が必要です。

それがやれないなら、やれるような方法を考えるしかありません。

学校給食は教育ですから「食の安全」の基本に立ち返ることです。

1. 原発の放射性物質を排除した給食を作る。
2. なぜ食べたらいけないかを教材化する。
3. 新しい危険には「新しい安全の考え方」が必要であることを教材化する。
4. 文科省の副読本は原発推進の立場で書かれていないか徹底的に自分たちで検証する。
5. 子どもに間違ったことは教えない。
6. 給食現場で食材の放射性物質検査を出来るようにする。

【最後に～聞き手として】

里見さんは、科学者として、常に基本に立ち返って発言されていると思います。食品衛生でも、手洗いの意味は、マスクの意味は、長靴を履き替える意味は、と、科学的根拠のない行為を「規則だから」と漫然と行うことへの

警鐘を訴えてこられました。

子どもたちの健康を守る、そのためには、何をしなければならぬか、という観点で、これら13項目がありました。

生産者と消費者をつなぐ測定ネットワークで測定運動を行っている者として、現在の測定の限界は痛いほど感じています。全量検査、人工放射性物質の完全な排除が、すぐに達成できる状況にないことを、里見さんの話を聞いて改めてくやしく思います。

それでも、陰膳方式でも、サンプルであっても、また、測定は目安でしかなくても、測定し、その情報を共有していくことが、現在できることです。

しかし、同時に、そのことに満足せず、里見さんが提言する内容が早く達成できるよう、声を上げることも必要です。

どこまでを汚染地域と考えるか、どこまでを「我慢」するか、難しい問題ですが、無用な危険を子どもたちや未来に負わせることはできません。

学校給食のあり方についても、試行錯誤しながら、子どもたちへの安全を確保する方策を作っていくしかないと思います。

皆様の地域での事例や取組みをご報告ください。

夏期学校給食学習会について 全国学校給食を考える会からのお知らせ

2012年夏期学校給食学習会に向けて準備を始めています。

取り急ぎ、決定事項をお知らせします。

日時 7月30日(月) 31日(火)
場所 新宿区立牛込筆筒ホール
内容 TPP参加による学校給食の影響
大豆を素材とした食育実践事例 等

詳しくは、次号および、学校給食ニュースホームページにて随時ご案内します。

時事情報

ホームページ・新聞等からの情報

愛知県長久手市、7500食のセンター完成

2012年1月に、老朽化したセンターの移転新築した新学校給食センターが完成した。4月から稼働している。7500食、小学校6、中学校3、保育園6に配食。食器は強化磁器。オール電化。アレルギー対応専用室設置。

長久手市 <http://www.city.nagakute.lg.jp/>
新給食センターが完成しました(説明会資料、実施計画他) http://www.city.nagakute.lg.jp/kosodate/kyushoku/kyuuse/kyoiku/kyushoku_kensetsukeika.html
長久手給食センターの紹介 http://www.city.nagakute.lg.jp/kosodate/kyushoku/kyuuse/kyuushoku_top.html

鹿児島県鹿屋市、調理員からノロウイルス

鹿児島県鹿屋市教育委員会は、2012年2月7日南部学校給食センターの調理員の定期健康検査で1名からノロウイルスの陽性反応があり、同センターが担当する24小中学校への配食(5,600食)を3日間停止した。3日間は、パンと牛乳に代えて対応した。

鹿屋市 <http://www.e-kanoya.net/>
鹿屋市立南部学校給食センター調理員の定期健康検査によるノロウイルスの検出について
http://www.e-kanoya.net/htmbox/gakkou_kyouiku_C/noro.html(現在はリンク切れ)

静岡県、調理員がノロウイルス発症

静岡県教育委員会は、東部学校給食センターの調理員が2月13日に体調不良で休み、16日にノロウイルスの幹線が判明したため、17日から副食の配食を中止。18日以降は学校の判断で対応だが副食持参が多かった。小中学校15校約9300食。

静岡市 <http://www.city.shizuoka.jp/>
平成23年度第2回 静岡市立学校給食センター運営協議会会議録(PDF) <http://www.city.shizuoka.jp/000127428.pdf>

岐阜県羽島市、ノロウイルスの集団感染(給食外)

羽島市では、2012年2月15日より、ノロウイルスと見られる

腹痛による欠席者が増えた。これについて、学校給食が感染源ではないとみられたが、県生活衛生課が2月10日、13日、14日の給食、調理従事者検便、パン工場、果物加工所の拭き取り検査などにより、ノロウイルスは検出されなかった。ただし、栄養教諭の検便からノロウイルスが検出されたこともあり、対象の南部学校給食センターについては、2月20日～22日の間学校給食を中止し、市として拭き取り検査を行い、その結果が問題なかったことなどから、23日に給食を再開した。北部給食センターでは通常の学校給食を継続した。

羽島市は、市のホームページにて2月15日からの記者発表等の内容を22日まで詳細に報告している。

羽島市 <http://www.city.hashima.lg.jp/>
学校教育新着情報(ノロウイルス対応等の情報)
http://www.city.hashima.lg.jp/category_list.php?frmCd=20-4-0-0-0

静岡市で、農薬汚染中国産あさがり給食に

2012年3月23日、静岡市は、学校給食における「あさがり水煮」の使用についてとする発表を行った。メーカーが中国産あさがりの水煮を検査し、農薬プロメトリンが基準を超える数値を検出。3月21日に自主回収を通知。静岡市の学校給食でも使用していたためである。約18000人が喫食。静岡市は、「健康に影響を及ぼすことはありません」としている。

静岡市 <http://www.city.shizuoka.jp/>
学校給食課 <http://www.city.shizuoka.jp/deps/gakkokyushoku/>
学校給食における「あさがり水煮」の使用について
<http://www.city.shizuoka.jp/000125499.pdf>

福井県越前市、コウノトリを呼び戻す農法米を給食で試行

福井県越前市は、コウノトリが舞う里づくりを進めている。平成24年3月版の実施計画では、環境調和型農業の推進と農産物のブランド化の一環として、学校給食への地

場産農産物の導入支援を市が行っている。平成23年11月には、学校給食での米の使用試行が行われた。また、食育などについての取組も行われている。

越前市 <http://www.city.echizen.lg.jp/>
コウノトリが舞う里づくり実施計画 http://www.city.echizen.lg.jp/office/060/020/kounotori_plan_d/fil/storkplan.pdf

米粉でスーパー給食

社団法人米穀安定供給確保支援機構と一般社団法人超人シェフ倶楽部は共催で2010年度から「米粉でスーパー給食」を実施。2011年度までに11回実施。

米粉でスーパー給食 <http://www.komenet.jp/s-kyuushoku/>

日本冷凍食品協会、給食使用調査

社団法人日本冷凍食品協会は、2012年3月21日、給食事業者冷凍食品実態調査の結果を発表し、概要をホームページに掲載した。

調査の結果を、報告書概要では、

「・取扱いの有無をみると、民間事業所給食や配達式給食ではトータルコスト重視により全カテゴリーの冷凍食品について取扱いがあり、必要不可欠な存在となっている。

・学校給食の独立調理校でも東京都は手作り意識が非常に強く、冷凍食品(加工品)を扱うことにネガティブであるのに対し、群馬県の独立調理校では、調理設備や人員配置の状況で冷凍食品を扱わなければならない環境にある。

・給食センターでは東京都A市を除き、冷凍食品を使うことを前提とした事業運営がなされ、調理効率や衛生管理

重視により全カテゴリーで活用されている」とまとめている。

社団法人日本冷凍食品協会 <http://www.reishokukyo.or.jp/>
給食事業者冷凍食品実態調査結果 <http://www.reishokukyo.or.jp/topics/public/kyusyokutyousa>

大分県津久見市、学校給食にパンを出さず

津久見市 <http://www.city.tsukumi.oita.jp/>

北海道岩見沢市、食中毒補償金1783人

岩見沢市食中毒問題について <http://www2.city.iwamizawa.hokkaido.jp/kyouiku/osirase/kyuusyoku.html>

山口県下関市で調理員の集団食中毒

下関市立川中学校【緊急】学校給食調理員の食中毒発生による給食中止等について(お詫びとお願い)
http://shp.edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/~kawanaka_c/blognplais/index.php?e=296

富山県入善町、保育園で食中毒

岡山県新見市で、異物混入

毎日新聞社、農業工業会と給食セミナー

アレルギー対応に関する記事

原発事故・放射能汚染関係

全国集会の感想

学校給食全国集会に参加して

Oさん(学校栄養職員)

原発を推進してきた国及び東京電力に対し、一人の国民として憤りを感じます。福島原発の事故により故郷を失った多くの人々の気持ちは想像に堪えません。今後同じような事故を防ぐためにも、国及び東京電力はきちんと情報を提供する義務があると考えられます。

原発事故後の東北地方の生産者の方々の苦労は計り知れません。このような状況の中でも、やはり国は流通する食料の被曝量をスムーズに把握できるシステムを作るよう努めるべきです。日常的な食料の流通は元より非常に流動的なものであるため、食品中及びその表面の放射性物質の量を正確に把握することは非常に難しいことであると考えられます。測定設備や条件を整えることは、莫大なエネルギーを要するでしょう。

私が学校栄養職員として赴任する直前に福島原発での事故が起こり、その後給食の安全性が成り立つのかとても不安になりました。これまでの学校給食について勉強すると同時に、食品の放射能汚染について学び、栄養士として対策を考え働きかけていくことの重要性を今でも感じています。しかし、自分が給食管理業務を行う上で、十分といえる放射能汚染対策はまだ行うことができていません。今後は栄養士として、食材の被曝量を把握した上で判断し、内部被曝を比較的少なくできる調理法により給食を提供するべきなのではと考えています。

また、本校でも学校給食の民間委託に関して問題を抱えています。子どもたちをとり巻く環境全てが教育と関わります。なので、自治体には「教育は子どもたちのために行われるべき」であることを十分認識してほしいです。給食の提供、同じことを行っているように見えてもシステムが違っただけで、子どもたちに与える影響は大きく異なります。

日々子どもたちとのふれ合いの中で、どうしたら子どもたちのためになるのかということ意識しながら、できる

ことを着実に果たせるよう成長していきたいです。

2012学校給食全国集会プレセミナーに参加して
(里見先生へのファンレター)

Yさん

拝啓 里見先生

3月28日の<2012学校給食全国集会>プレセミナー「原発事故から何を学ぶか～食の安全と子どもたちへの教育」を受講いたしました。先生のお話の中で最も私の心に残ったのは、「貧富の差で放射能汚染からの防御に差が出る危険があるので、そうならないような運動を組む必要がある」ということです。グッときました…ファン度倍増！

かれこれ20年以上も前のこと。照射食品なるものの存在を知り、里見先生が中心になって著された「放射線照射と輸入食品」を読んで、里見先生のファンになりました。この本では、照射食品そのものの危険性のみならず、照射食品が開発された背景(原子力産業との結びつき＝第三世界への原発の売り込み)や反対運動の取り組み方まで言及しています。この本で先生たちが指摘されている諸問題は、東京電力原発事故後の現在でもなお、そのまま世に問われている事柄ですね。

当時の私は原発のことが気になり始めて間もなくで、原発関係の学習会や講演会に出かけるたびに、新たな問題に気づかされ、「原発は闇鍋だ～！」などとアタフタしていたところでした。そんなところに、また一つ大物が箸にひっかかってしまった、と思ったものです。

数年前、里見先生の講演は<全国学校給食を考える会>で主催されることが多いことを知りました。学齢期の子どもはおらず、学校給食関係者ではない私でも快く参加をさせていただけることが判り、時折、里見先生のお話を聞きに出かけるようになりました。

お話はテンポよく(受容体がよくないのでカタカナやア

ルファベットの物質名・化学記号は、ほとんど私の頭には残っていきませんが)テーマをどんどん掘り下げ、広がり、ユーモアや皮肉を交えつつ肩こりせずに聴くことができます。先生のお話を好ましく思う理由はそれだけではありません。まずは、子どもたちのことを中心に据えて、テーマの社会的背景を示して下さい。次いで「運動は経済的弱者のことに配慮を」という主旨のことをおっしゃったところでズシンと胸に響きます。

これまで参加させていただいた先生の講演会では、「皆さん、〇〇で食べ物を届けてもらっているから放射食品なんて関係ないなんて思わないで下さい」と、時にちょっと皮肉を込めてお話されていましたね。私は先生のお話に頷きながらも、心の底では「自分を買わなければいいよ」という気持ちが全くなかったか否か、今振り返るとちょっと自信がありません。

昨年のお夏期学校給食学習会では、先生がこれまで以上に原子力をとりまく状況に“憤って”おられた様子がひしひしと伝わってきました。科学的知見に基づいて折々の社会状況に“正しく怒る”お姿にある種の感動を覚えました。

しかし、しかし、です。先生のお話を伺い、頷き、感動して、その都度「何かしなければ」とは思うものの実際に何をしたらかと問われたら、返事に窮してしまいます。ことに3・11以降は思考停止状態が続いていました。

あの日以前は、放射食品や原子力発電の危険性を多くの人に知ってもらい、「原発はいらない」という声を大きくしたい、という思いで、知人とともに学習会や写真展などを時折開催してきました。けれど、私たちの思いが世の中

に反映される前に、レベル7の放射性物質放出は起きてしまいました。放射能汚染の現実を経験して、ようやく多くの人たちが「原発はいらない」と意思表示を始めた一方で、まだまだ「原発が必要」と言う声小さくなっていないことには驚くばかりです。

放射食品関連では、あろうことか「今年の8月にスパイス協会は放射スパイスを推進することを表明した」と先生から伺いました。「放射性物質がついてしまった汚染食品」については多くの人知ることになりましたが、「放射線をあてた放射食品」の危険性は、まだまだ知らない人が大多数と思われます。昨年夏以降、先生のお話を繰り返し伺って(今さらですが…)放射食品の危険性を多くの人に知ってもらいたいという気持ちが膨らんできました。

くしくも4月26日の東京新聞に、先生がその存在と内容を批判してこられた「小中学生のための原発副読本」の制作請負をしてきた「エネルギー環境教育情報センター」が昨年度いっぱい消滅していた旨の記事が載っていました。これを見て初めて「原発副読本」の存在を知った方は結構多いのではないかと思います。「放射食品」もこのように新聞などで取り上げてもらえれば、多くの人に知らせることができるのでは…と思うのは短絡的でしょうか? 遅きに失した感はありませんが「私にでもできること」を探してみたいと思います。

天候不順が続いています。加えて、あまりの“憤り”で体調を崩されませんようご自愛くださいませ。

敬具

(参考)「放射線照射と輸入食品」(北斗出版:1990年初版・2001年増補版)

学校給食ニュース 142号

発行:学校給食ニュース
編集:学校給食ニュース編集事務局
会費:年額3,500円(4月から3月、送料込み年10回)
〒106-0032 東京都港区六本木6-8-15
第2五月ビル2階 大地を守る会気付
全国学校給食を考える会
お問い合わせは...全国学校給食を考える会
電話:03-3402-8902 FAX:03-3402-5590
E-mail kyushoku@member.daichi.or.jp (購読・会費等)
E-mail desk@gakkyu-news.net (内容・投稿等)

学校給食ニュース発行団体

全日本自治団体労働組合・現業局
千代田区六番町1(電話03-3263-0276)
日本教職員組合・生活局
千代田区一ツ橋2-6-2(電話03-3265-2175)
日本消費者連盟
新宿区西早稲田1-9-19-207(電話03-5155-4765)
全国学校給食を考える会 左記住所、電話番号

情報シート

地域の課題や実践例、ニュースへの感想やご意見もお願いします。写真などはデータや実物を送ってください。

送り先 〒106-0032 東京都港区六本木6-8-15 第2五月ビル2階 全国学校給食を考える会

TEL03-3402-8902 FAX03-3402-5590 E-mail desk@gakkyu-news.net

記入者名

団体名

ご連絡先(電話・FAX・e-mail)

ご住所(または、都道府県・市町村名)

私は、 栄養士 調理員 保護者 その他()です。

ニュースに掲載する場合、名前は 掲載可 掲載不可(匿名) です。